

# カスケード池下花壇の改修について

中川悠・荒木大蔵・泉川康博

## 花壇の管理状況

カスケード池下花壇は、令和5年度まで栽培管理を外部委託していたが、令和6年5月中旬の抜き取りを最後に委託から外し、直営管理の花壇とした。

委託から外した理由としては、日当たりが悪く、一般的な花壇用植物では生育不良となりがちなため、担当者の裁量により使用植物の選択や管理作業を行う方がより良い管理が可能であると考えられたことが挙げられる。その結果、場所の特性を鑑みて、日陰を好む多年草をメインに使用したシェードガーデンを目指して改修を開始した。

## 作業内容

花壇の改修にあたり、花壇西側の薄暗い茂みが見えた状態だと、花壇一帯が暗いイメージになってしまうと考え、目隠しとして木製の白いフェンスを設置することとした。フェンスは、単管パイプと単管ベース、防腐処理を行った杉材を用いて直営で作成した。

花壇自体の改修については、この花壇は、日当たりだけでなく土壤環境も良くなかったため、土壤改良から始めることとした。具体的には、作土層が浅く、硬盤層が形成されており、土壤中の有機物が少なく、保肥力や透水性が低かった。

土壤改良の作業は、真夏を除いた令和6年の夏前から冬までの間で行った。はじめに、剣先スコップを用いて深さ30 cm程度の穴を掘り、その後、掘り上げた土にバーク堆肥・牛糞ミックス（牛糞1 Lにつき、油かす300 g・ようりん200 gを混和）を少量ずつ混ぜながら埋め戻した。施用量については、花壇の上段・下段それぞれにバーク堆肥20袋、牛糞ミックス10 Lを施用した。この作業の際、地中からクスノキの根が大量に出てきたため、取り除きながら作業を進めた。なお、これらの作業は花壇全体において実施した。さらに、この土壤改良以降も、植物の植え付け時など必要に応じて同様の資材を追加で施用した。

土壤改良は令和7年1月頃に完了し、その後は花壇内にレンガやコンクリート平板を用いて通路を作った。花壇内には、電力用マンホールや止水栓の蓋が存在し、それらを含めた地表のレベルがカスケードの舗装部分よりも高くなっていたため、通路に階段状の部分を設けた。階段状になる部分はコンクリート平板を用いて作成し、傾斜が緩やかな部分は通路の外周をレンガで囲み、その内側に園内で出た木材チップを敷き詰めた（図1）。なお、通路を設けた理由は、花壇内のマンホール等をあまり目立たないようにできること、これらを使用する際に簡単に作業できること、来園者が風景を楽しみながら休憩できる日陰を確保することなどである。

植栽については、土壤改良と通路整備が完了した令和7年1月下旬より、苗の納品に合わせて随時進めていった。計画当初作成した植栽図に記載した植物については、同年6月頃には植栽が完了した。なお、作業開始後に、計画時より花壇の面積を広げることとしたため、実際の植栽については計画時に作成した植栽図を基に現地でバランスを見ながら植え付けを行った。

## 使用植物・特徴

当該花壇の植栽には、日陰を好む多年草・低木を主として、植え付け場所の日照条件等によって日向を好む植物や一年草も組み合わせて使用した。

本稿執筆時点（令和7年12月上旬）までに使用した植物の種名・品種名・特徴をまとめた一覧表と植栽位置図を作成した。（表1、図2）

植え付け後の様子と今後の予定

植物の植え付けから現時点までの生育については以下の通りである。

花壇の東側に植え付けた植物は、夏に葉焼けを起こしたものが多かった。原因としては、高温と日差しが強すぎたことが考えられるが、その後新しく生えてきた葉は、気温・日差しが大きく変化していないのにも関わらず正常に見えたため、植え付け前からの古い葉が環境の変化に適応できなかった可能性も考えられる。しかし、花壇東側に植え付けた植物にも日陰を好む種が多いため、今後も夏には生育が悪くなると予想される。そこで、葉焼けを起こした植物の花壇西側への移植と、花壇東側への日向を好む植物の植え付けを予定している。なお、花壇の

夏の日照条件については、朝日は花壇全体に届くが、西側から順に日陰になっていき午前11時頃には花壇全体が日陰となる。また、夏の暑さで弱った際に白絹病を発症し枯死したギボウシ、ヘレボルス・ニゲル、ヘレボルス・ヒブリドゥスが数株見られたため、8月上旬と9月下旬にアフエットフロアブルを散布した。なお、白絹病を発症していても新芽を出している個体については、すぐには抜き取らず、腐敗した部分のみを取り除いて経過を観察した。このような個体の多くは、その後何度か腐敗した部分を取り除くこともあったが、発症時に出ていた新葉が展開しきる頃には、症状は見られなくなった。白

絹病については、病原菌を土壌から完全に排除することは難しいと考えているため、植え付けた植物が病原菌に抵抗できるように、健康な状態を保つように管理していこうと思う。

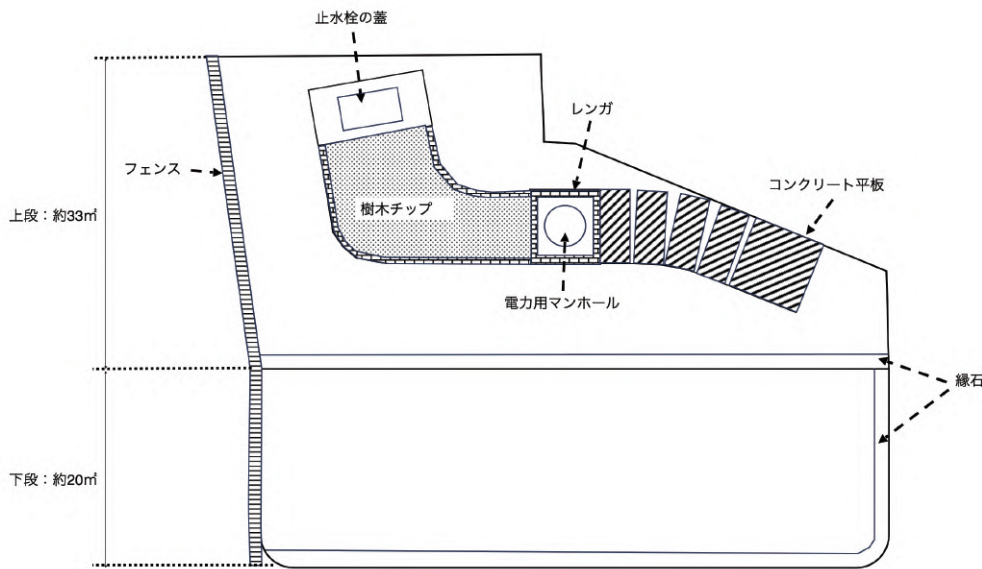


図1 カスケード池下花壇 形状

- ① タマノカンザシ (八重)
- ② ニシキシダ
- ③ ベニシダ
- ④ フウチソウ
- ⑤ アカンサス・モリス
- ⑥ コバノスイナ
- ⑦ ヘレボルス・ニゲル
- ⑧ ヘレボルス・ヒブリドゥス
- ⑨ クサソテツ
- ⑩ アスチルベ  
'チョコレートショウゲン'
- ⑪ トラディスカンティア  
'スイートケイト'
- ⑫ ヘメロカリス 'ステラデオロ'
- ⑬ バイカウツギ  
'ハルズオブパフェウム'
- ⑭ カンパニュラ 'メリーベル'
- ⑮ ヒペリカム  
'ゴールドフォーム'
- ⑯ ホスタ 'ブロードバンド'
- ⑰ ホスタ 'ソースイート'
- ⑱ ホスタ 'カーリープライズ'
- ⑲ ホスタ 'ハルシオン'
- ⑳ ホスタ  
'レイクサイドベイスリープリント'
- ㉑ ホスタ 'ゴールデンティアラ'
- ㉒ オオバギボウシ (斑入り)
- ㉓ ヒューケラ 'ヘブン'

- ㉔ ヒューケラ 'ドルチェ'
- ㉕ ケウム 'マイタイ'
- ㉖ オダマキ
- ㉗ ベルシカリア 'ゴールドエンローズ'
- ㉘ アカンサス 'ホワイトウォーター'
- ㉙ ホスタ 'ハニーベルズ'
- ㉚ アムソニア・フプリヒティ
- ㉛ スクテラリア 'マーブル&パープル'
- ㉜ サンパカス 'ブラックレ'
- ㉝ アジサイ
- ㉞ アナベル 'グランデピンク'
- ㉟ ヒメツギ 'ユキチェリープロッサム'
- ㊱ アリッサム  
'スーパーアリッサム フロスティーナイト'
- ㊲ トウテイラン
- ㊳ サツマノギク
- ㊴ ナワシロイチゴ (黄金葉)
- ㊵ クレマチス 'マダム・ジュリア・コレボン'
- ㊶ クレマチス '籠口'
- ㊷ クレマチス '踊り場'

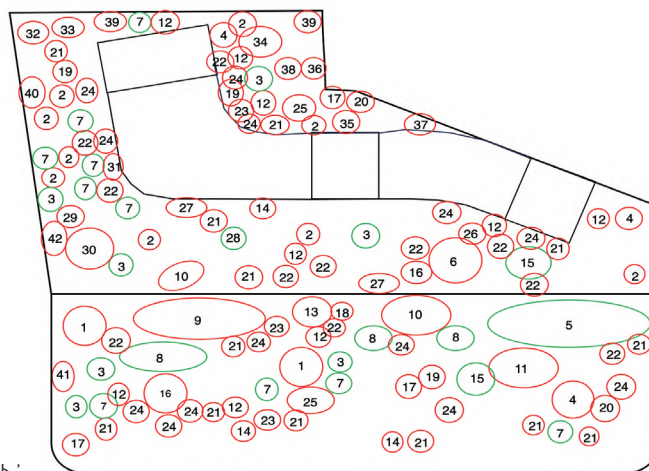


図2 植栽図

※番号の無い植物は、他の植栽の間隙を埋めるように使用した。

- リシマキア 'リッシー'  
リシマキア 'ミッドナイトサン'  
カラスバニガナ  
ニオイシミレ (白・紫)  
シクラメン・ヘデリフォルム  
シクラメン・コウム

表1 使用植物一覧表

種名	品種名	開花（観賞時期）	特徴
多 年 草			
アカンサス・モリス		夏	
アカンサス・モリス	‘ホワイトウォーター’	夏・（通年）	斑入り
アスチルベ	‘チョコレートショウゲン’	初夏・（春～秋）	銅葉
アムソニア・フブリヒティ		晩春～初夏（秋）	
アリッサム	‘スーパーアリッサム フロスティーナイト’	通年（通年）	斑入り・四季咲き
オオバギボウシ		夏（春～秋）	斑入り
オダマキ		初夏	
カラスバニガナ		春～秋（通年）	銅葉
カンパニュラ	‘メリーベル’	春～秋	四季咲き
クサソテツ		春～秋	
クレマチス	‘マダム・ジュリア・コレボン’	初夏	ビチセラ系・赤
クレマチス	‘籠口’	初夏	インテグリフォリア系・紫
クレマチス	‘踊り場’	初夏	
ゲウム	‘マイタイ’	春～初夏	
サツマノギク		秋～冬	
シクラメン・コウム		早春	
シクラメン・ヘデリフォリウム		秋～冬	
スクテラリア	‘マーブル&パープル’	春（春～冬）	斑入り
トウテイラン		夏～秋（春～秋）	シルバーリーフ
トラデスカンティア	‘スイートケイト’	春～秋・（春～秋）	黄金葉
ニオイスマレ		冬～早春	
ニオイスマレ（白花）		冬～早春	
ニシキシダ		（春～秋）	
ヒューケラ	‘ヘブン’ シリーズ	通年	
ヒューケラ	‘ドルチェ’ シリーズ	通年	
フウチソウ		（春～秋）	斑入り
ヘメロカリス	‘ステラデオロ’	初夏～秋	矮性・四季咲き
ベルシカリア	‘ゴールドエンアローズ’	秋（春～秋）	黄金葉
ヘレボルス・ニゲル		冬～早春	
ヘレボルス・ヒブリドゥス		春	
ホスタ	‘ブロードバンド’	夏（春～秋）	黄斑・大型
ホスタ	‘ソースイート’	夏（春～秋）	芳香・黄斑・中小型
ホスタ	‘カーリーブライズ’	夏（春～秋）	フリル細葉・中小型
ホスタ	‘ハルシオン’	夏（春～秋）	青葉・中小型
ホスタ	‘レイクサイドベイズリープリント’	夏（春～秋）	フリル・多色斑・中型
ホスタ	‘ファイヤーアイランド’	夏（春～秋）	赤軸・黄金葉
ホスタ	‘ゴールドデンティアラ’	夏（春～秋）	黄斑・小型
ホスタ	‘ハニーベルズ’	夏（春～秋）	芳香・中大型
マルバタマノカンザシ		夏	八重
リシマキア	‘リッシー’	初夏（通年）	斑入り・黄金葉
リシマキア	‘ミッドナイトサン’	初夏（通年）	銅葉
一 年 草			
オルラヤ		春	
サルビア・コクシネア	‘アカプルコ’	夏～秋	
チドリソウ		春	
ネモフィラ	‘インシグニスブルー’	春	
ワスレナグサ	‘ブルームッツ’	春	
木 本			
アジサイ		初夏	
アナベル	‘グランデピンク’	初夏	
コバノズイナ		初夏・（秋）	
サンブカス	‘ブラックレース’	春～初夏（春～秋）	銅葉
ナワシロイチゴ		（春～冬）	黄金葉
バイカウツギ	‘パールズオブパフェーム’	初夏	八重・芳香
ヒベリカム	‘ゴールドフォーム’	（春～秋）	気温・日照で葉色が変化
ヒメウツギ	‘ユキチェリープロッサム’	春（秋）	